



2年生 道徳 生命の尊厳

ブラック・ジャック ふたりの黒い医者

7月14日（金）に予定されていた授業参観をコロナ感染症が流行していたために中止にしてしまいましたので、（その代わりにはなりません）あるクラスの道徳の授業の様子を紹介します。

2年6組の生徒に対して、初任者の先生が「生命の尊厳」を主題とした道徳の授業を行いました。教材名は「ブラック・ジャック ふたりの黒い医者」（『新中学生の道徳 明日への扉2』）でした。寝たきりの母とその子供が、それぞれ安楽死をドクター・キリコに、命を救う難しい外科手術をブラック・ジャックに依頼するという話でした。

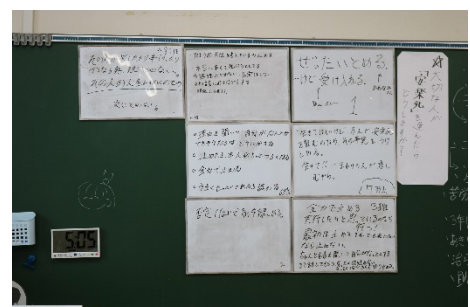
Q あなたの大切な人が安楽死を選んだらどうしますか？

この質問に対しては「全力で止める。その人には生きていてほしいと思う。動けなくても意識がなくても。」「その人が周りの負担を考えて死のうとしているのなら止める。その人が心の底から、辛くて生きていたくないなら、改善できるように、相手の要望に応える形で頑張るけど、それで無理なら止めない。」「大切な人だから生きてほしい。でも、安楽死したいほど苦しいことがあるのだったら、無理に生きてほしいとは言えないかも。だから、その事実を受け止める。」「引き止めない。その人が選んだ結論だから。でも、なるべく後悔のないように毎日会いに行ったり話したりする。助言はする。寄り添うのが優しさだと思う。」「（安楽死を）勧めもしない。止めもしない。その人が本当に死ぬ方を決断して死ぬまでは、その人の近くでずっといる。（本人が許してくれるなら。）」といった意見が出ました。



Q あなたは限られた生命をどのように使いますか？

この質問に対しては「私は時間を大切にしたい。理由は、人間はいつ死ぬか分からないので、今の時間を大切に、一日一日を大切に生きていきたい。」「悪いことをしないで自由に生きる。長生きできることをする。」「いろんなことに挑戦する。」「悔いを残さないように生きる。どうせ人間なんて100年しか生きないし、一度きりだから、周りのことを考えすぎて『本当の自分』で生きられないなんてもったいない。辛くても自分で決めたことを投げ出さない。後悔を残さない。」「大切な人のために尽くしたい。命を軽く見ないで生きていきたい。」「だれかのために使う。」「自分がいつ死ぬかなんて分からないから、今を全力で楽しみたい。あーすればよかったとならないように大切にすごしたい。」「好きなように生きる。」「人に迷惑をかけない程度に自分のしたいことをする。ある程度の目標は持って生きていきたい。」「といった意見が出ました。



天才的な外科手術の技術を用いて、命を救うことに執着するブラック・ジャックと、延命をさせることは必ずしも幸福だとは言えないのではないかと安楽死に賛成するドクター・キリコ。その対照的な姿を通して、生徒が「生命とは何か」「自分の命をどう使うのか」について深く考えることができた、とてもよい授業でした。

本校の生徒は、自分の考えを持ち、その考えをしっかりと述べることができます。今後も対話を通じて仲間と共に考えを深められるような授業を行っていきます。

善行賞 やさしく生きる



① 6月1日(木)夕方、富士南小の児童が、友達が川に落としてしまった物を拾おうとして、自分が川に落ちてしまったことがあったのですが、その際、近くにいた南中女子生徒2人が助け、その児童の祖母宅に連れて行ってあげたということがありました。助けてもらった児童とその保護者や祖母の方が心から感謝していました。その生徒は1年6組の2人でした。

② 6月30日(金)朝、登校の途中、富士南小の児童が道端に倒れていたことがありましたが、その児童を通りかかった女子中学生と男子中学生が助けていたことがありました。女子は2年4組の生徒、男子は1年3組の生徒でした。

次の話も心温まるものです。

中学総体 剣道大会男子団体戦のことです。本校生徒が一本を取り、勝利(3位以上確定)を目前にして、相手選手ともつれて転倒し、後頭部を打ってしまったため棄権となり、敗れてしまったことがありました。その際、生徒会長でもある生徒は、対戦相手の選手に、「このことを気にしないでほしい」と伝えに行きました。そして、本校剣道部はモップ等で試合会場の片付け・清掃も進んで行いました。(その他の部活動でも同じような心温まる行為が行われていることでしょう。)



学校での生活もそうですが、地域でも南中生の「やさしく生き」ている姿をたくさん見えています。大変うれしく思います。これからも「やさしく生きる」を続けていってほしいと思います。

「やさしく生きる」ためのヒントは、①ありのままを認めよう ②ありがとう 感謝しよう ③挑戦しよう やってみよう ④前を向く 半歩でもいいから進もうです。自分の体の中にある可能性(たね)は「やってみよう」と挑戦していくことによって引き出され、たねから芽が出てきます。

7月6日(木)に行われた生徒会立会演説会では、17人もの立候補者が南中生徒会をよりよいものにしたいと思いを語っていました。とてもうれしい姿でした。学校は、自分を磨くために、挑戦しようとする生徒がたくさん生まれるように、これからも応援していきます。保護者・地域の方々もご理解とご協力をお願いします。